

1 学校の教育目標

自ら学び、自ら伸びる子どもの育成

～ふるさと九十九里からの主体的・協働的な学びを通して～

【目指す子どもの姿】

「かしこく、やさしく、たくましく」

かしこく（進んで学習する子ども）

やさしく（心やさしく、気づかいのできる子ども）

たくましく（心と体をきたえ、いつも元気な子ども）

2 本年度の重点目標・特色ある取り組み

- 1 教育的ニーズの把握と共有に基づく個に応じた支援体制を充実させる。
- 2 読書活動を充実させる。
- 3 人権を尊重する教育を推進し、いじめや問題行動の早期発見・適切な対応に努める。
- 4 正課体育の充実と「外遊び」の奨励により、運動に親しませる。（生涯スポーツの基礎作り）
- 5 働き方改革の推進により、職員が心にゆとりを持って笑顔で教育活動ができる職場づくり。

3 具体的な評価項目の取組・達成状況

評価項目		結果	考察
目標1 豊かな人間関係・基本的な生活習慣	①学校生活を楽しく過ごすことができたか。	A	<p>児童の92%（「がっこうにくるのがたのしい」）、保護者の86%が（「お子さんは明るく元気に学校に通っている」）肯定的な回答をしている。</p> <p>本校は教職員が子どもたちにわかりやすい授業とともに、魅力ある学校行事を展開している。また平素の生徒指導に加え、月に一度アンケートを行い、アンケートで気になる回答をした児童には面談も行い不安解消を図っている。今後もこうした取り組みを行っていく。</p>
	②いじめがなく、友だちと助け合って生活しているか。	A	<p>児童の99%が「せんせいは、いじめのないがっこうにしようとしている」に対して肯定的に回答している。保護者の87%も「いじめ等を含む子どもの問題に適切に対応している」に対して肯定的に回答している。</p> <p>毎月、「教えてカード」などのアンケートを実施し、観察からだけでは見えないいじめの実態をつかむ努力を教職員は行っている。</p> <p>また、休み時間に児童と遊ぶ教職員も多く、深い児童理解に努めている。</p>
	③基本的な生活習慣は、身についているか。	B	<p>「お子さんは学習用具の準備や意欲など、基本的な学習習慣が身についている」という問いに対して保護者の肯定的な評価は73%にとどまっている。昨年よりも6%低下した。「児童は学校や社会のルールを守り我慢できる」の問いに対しての教職員の肯定的な回答は88%である（昨年度比+21%）。</p> <p>今年度は学習の基本的な用具の準備を繰り返し指導してきた。学習用具の準備等は昨年度よりできるようになってきたものの、保護者の求める基本的な学習習慣の定着までには至っていない。</p>

評価項目		結果	考察
目標2 学力の定着	①授業はわかりやすく、学習したことを理解することができたか。	A	<p>児童の95%が「じゅぎょうはわかりやすくてたのしい」に対して肯定的に回答している。保護者の85%も「お子さんは、計算・漢字など学年相応の基本的な学習の力が身についている」に対して肯定的な回答をしている。</p> <p>今年度は昨年度よりさらにICT機器を活用した授業を積極的に取り入れた。学習のまとめをデジタルで行う場面もあった。しかし、家庭学習については時間も取り組み方も改善</p>

・向上			の必要がある。家庭の協力も得ながら学習の理解度も高めていきたい。
	②教師は一人一人に目を配り、わかりやすい授業を心がけているか。	A	<p>児童の98%が「じゅぎょうでわからないことについて、せんせいにしつもんしやすい」と肯定的な回答をしている。</p> <p>本校には学級担任の他に、専科で授業を行う教職員、千葉県学習サポーター、町の学習支援員に加え、支援員も2名配置され配慮が必要な児童への支援も行っている。一学級あたり最大でも23人という小規模校である。教職員の一人一人が児童全員の担任であるという意識で一人一人に目を配り、わかりやすい授業を展開していきたい。</p>
	③授業において、学習のルールが身についているか。	B	<p>教職員の94%は「児童は人の話を静かに聞き、自分の考えをはっきりと話すことができる」に対して肯定的な回答をしている。昨年より21%上昇している。保護者も「お子さんは人の話を静かに聞き、落ち着いて話ができる」に対して88%が肯定的な回答をしている。</p> <p>今年度は学習用具の準備等、学習ルールの徹底に力を入れてきた成果が表れてはいるものの、学習用具の適切な準備や次の授業の準備などに改善の余地がある。次年度以降も課題として進めていきたい。</p>

評価項目		結果	考察
目標3 健康・安全教育	①ルールの遵守や健康・安全に対する意識を持って生活しているか。	A	<p>保護者の92%が「お子さんは家庭や社会のルールを守り、我慢ができる」に対して肯定的な回答をしている。また全ての教職員が「児童に生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てている」に対して肯定的な回答(100%)をしている。</p> <p>今年度は学習規律の徹底に力をいれてきた。また安全に対する指導も学校の課題として位置づけ、津波対応、地震対応、不審者対応、火災対応の避難訓練に加え、ワンポイントを含む避難訓練の実施をした。交通安全教室も実施し安全への意識を高めている。継続して安全への意識を高めていく。</p>
	②学校は、学習しやすいように整備されているか。	A	<p>調査に回答した全ての保護者が「学校は教室や校庭など、学習に適した環境になっている」に対して肯定的な回答(100%)をしている。教職員の94%も「本校は現在ある施設・設備を有効に活用している」に対して肯定的な回答をしている。</p> <p>「なかよしホール」で雨漏りのために天井板を外す工事をするなど老朽化により使いに</p>

		くい箇所が出ているものの、日々、安全と学習のしやすさを追求し、修繕等を行っている。校庭の樹木等の剪定も地域の力を借りて積極的に行った。今後も学習環境の整備を継続していく。
--	--	---

評価項目		結果	考察
目標4 家庭・地域の連携	①積極的に情報を発信し、家庭や地域との連携を深めているか。	A	保護者の97%が「学校は学校・学年だより等により教育目標や教育活動をわかりやすく伝えている」に対して肯定的な回答をしている。学校だよりは町内の小中学校と比較しても発行回数が多い。また今年度は「すぐーる」も活用して情報発信にも努めた。さらに千葉日報等のマスメディアを活用し情報発信もした。今後も情報発信を積極的に行っていく。
	②PTA活動は充実しているか。	A	なぎさの運動会、秋季大運動会、校内マラソン大会、九小祭・PTAバザー、家庭教育学級、読み聞かせ、交通指導、PTAレク大会、PTAバレーなど、様々なPTA活動を実施している。保護者の負担にならない程度のPTA活動を今後も続けていきたい。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	考察
A	<p>10項目のうちA評価を8項目、B評価を2項目とし、総合評価をAとした。</p> <p>本年度の重点目標で特に力をいれたのが、「人権を尊重する教育を推進し、いじめや問題行動の早期発見・適切な対応に努める」ことである。この目標達成のために、問題行動に毅然と対応する、毎月アンケートを実施し、気になる児童には面談を行う、全職員で全児童の様子を観察し、気になることは共有し組織で対応していく、働き方改革の成果を生かし、深い児童理解のために児童と遊ぶ時間を確保する等に取り組んできた。その結果、99%の児童、87%の保護者が学校のいじめ等に対する取り組みを肯定的に評価されることにつながった。今後も人権意識を高め合い、誰一人取り残すことなく、いじめや問題行動に対応していく。</p> <p>児童の基本的な学習習慣への定着について、保護者の肯定的評価が比較的低い。今年度、基本的な学習習慣の定着を目指してきたが、家庭学習への励行などをさらに強力に進めていく必要がある。</p> <p>保護者に向けた学校評価アンケートでは概ね肯定的な回答が寄せられている。特に今年度は学校施設の整備と情報発信について高評価された。今後も学校の取り組みを積極的に情報発信し、地域とともにある学校づくりをしていく。</p>

5 今後の取り組み

項 目	具体的な取組方法
学力の定着 (基礎・基本の定着)	①「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の活用 ②個に応じた指導の推進 ③電子黒板、タブレット等のICT機器の効果的な活用 ④家庭学習重点週間の強化 ⑤学力向上推進委員会を活用しての職員の共通理解 ⑥読書貯金、読み聞かせの励行 ⑦九十九里タイムの実施 ⑧NIEの充実 ⑨学習支援員、学習サポーターなどの人材の活用 ⑩先進的な取り組みを行っている教育機関での教職員の研修
魅力のある教育活動	①外部人材の活用 ②学校行事等の充実（なぎさの運動会、九小祭） ③特色ある校外学習の充実 ④朝の読書の充実（読み聞かせを含む） ⑤ロング昼休みの実施 ⑥たてわり班活動の推進
仲良く助け合える 友だち関係づくり	①全教育活動を通しての道徳教育の充実 ②外部との連携（町教育委員会、町福祉課、児童相談所、東上総教育事務所、ハートフル東金等） ③体験活動の推進（芋づくり、焼き芋体験、めざし作り） ④たてわり班活動の工夫 ⑤おしえてカードを活用しての相談活動及び一人一人の児童との教育相談 ⑥SC・SSW・学校訪問相談員による相談活動の充実 ⑦相談ボックスの活用

6 研修活動、働き方改革について

(1) 本校は、今年度、研究教科を定めず全教科を対象とした。研究主題を「全ての児童が『分かる・できる』を目指した『九十九里タイム』～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた日常実践～」とした。各教職員が先進的な取り組みをしている学校等へ研修に行き、その成果を還元した。若年層を中心に相互授業参観、校内のベテラン層からの講話など研修の方法も工夫してきた。また、今年度は基本的な学習用具の準備、次の授業の事前準備などに力を入れてきた。令和9年度のブロック体育公開研究会を見据えて理論研修を行ったり、特別支援教育に関する要請訪問を行ったりしてきた。今後も、職員の指導力向上を図り、効果のある授業、子どもたちに価値のある教育活動を展開できるように精進していく。

(2) 働き方改革については、校長のリーダーシップのもと、仕事の効率化、削減、時間を意識した働き方、退勤の呼びかけ、毎月の勤務時間のフィードバック等に取り組んだ。その結果、超過勤務時間80時間を超えた教諭は0人。45時間を6か月になった教諭も0人である。職員に時間的なゆとりが出た結果、児童一人一人に対して丁寧に対応する姿が増え、深い児童理解のために児童と遊ぶ時間を確保できる教員が増えてきた。

また九十九里町が導入した連絡システムである「すぐる」や学校徴収金を原則口座振り込みとすることで働き方改革が進んだ。不祥事根絶についても毎月、一回以上研修を行ったり、周知する方法を工夫したりしてきた。今後も不祥事根絶を実現するための手立てを推し進めていく。